

# 独身人生 仲間とスクラム

## 「自由と自立」目標にサークル結成

結婚にとわかれず、一人で自立して生きたい、と考える人が男も女も増えていくが、日本の社会はまだ「結婚して子供を持つのが当たり前」という風潮が根強く、シングルにとっては生きにくい。そんな中で、あえてシングルを選んだ者同士、さまざまな問題を話し合い、情報交換し、励まし合い、自分たちの生き方を社会に向けて積極的にアピールしよう、という会が関西に誕生した。まだメンバーは二十人余り、個人の自由と自立、対等で優しい人間関係を求める、という趣旨に賛同する人は一緒に活動しませんか、と呼びかけている。

会の名称は「確信犯? シリ、周囲に呼びかけた。関連して会員の条件も「シングル」の会(仮称)。五 準備会で最後までもめた。結婚はどうする?」「シングルがカッパルか?で揺れねて、先日の五回目の集まりで一応発足の形に。発端は発起人でもある大阪府豊中市のフリーライター・立木揺さん(三三)と神戸市の会社員・児玉ひかるさん(三三)のある会合での出会い。自己紹介してお互い独身だとわかり、立木さんが「確信犯ですか?」と尋ねたのに対し、児玉さんが「そうですね」と答えたところからすっきり意気投合。このやりとりが会の仮の名称にもなったが「お互い、独身でいると大変だね」と話すうちに、「今の生き方が自分では気に入っているけど、独身でいると日本の社会では、あいつおかしんじゃないか、とみられる」といったところから「シングル」の問題を考える場があればいいね」という話に。

別の会で「制度としての結婚」に反対の立場から、男と女の関係を考える「三三」を発行している京都市の出版社勤務・朝倉ふみさん(三〇)、戦中世代の独身女性を中心とした「ひとり歩きの会」のメンバーでもあったフリーライター・吉田清彦さん(四七)にも声をかけ、この四人が発起人にな

### 月1回の定例会/機関紙を発行/映画会も



なぜシングルを選んだか、それぞれの思いを語り合うメンバーたち

いわれるけど、病気などの時はやはり不安。お互い助け合ったり励まし合ったりできる仲間が欲しい」という五十代の会社員の女性。「結婚という制度に疑問を感じていまだ一人だが、今の社会の中では男が一人生きていくことは女以上に難しい」という四十代の公務員の男性、「男と暮らしたことはあるが、家事を半々にやってくれても一緒に暮らすだけで抑圧を感じてシンドイ。今、その相手とは友達同士で快適な関係」という二十七歳の出版社勤務の女性などがそれぞれ、自分のシングル・ライフについて語り合った。

同会では今後の活動として、月一回の定例会のほか、「ニュースレター」「シングルズ・ネット」の発行、料理のコツや電気修理の仕方を実習する「結婚しないでも生きられる・シングル塾」、結婚にとわれない男女の関係を探る「性の研究会」、映画を通して「シングル」の生き方を考える映画会などが中心になって開いていく予定だ。

次回定例会は九月二日午後一時から、神戸市の神戸学生青年センター。同会の問い合わせは電〇七八八五四一三四五(児玉さん)または電〇六八四三三〇八三九(立木さん)まで。

認るための、発起人たちはシングルに「確信犯」とを付けることで会員にも幅を持たせることに。神戸市内で開かれた第一回の集まりには二十代から五十代まで十八人が参加



家庭と